

単元名 **そうぞうしたことを、音読げきであらわそう**

配当時間 **12 時間**

単元の目標 (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
(2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したり、文章を読んで感じたことや分かったことを共有したりすることができる。
(3) 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、音読劇に取り組もうとする。

標準的な展開例

02010208_001

【教材名】お手紙 (下 P. 11～P. 26)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★「お手紙」を読んで、想像したことを音読しよう。 ○扉の詩「赤とんぼ」を読む。</p> <p>○「お手紙」の範読を聞き、学習課題をつかむ。</p> <p>○教科書(P. 24～25)を見て、学習の進め方を確認する。</p> <p>2～3 教材文を読み、大まかな内容をつかむ。 ★がまくんとかえるくんの行動を読み取ろう。 ○各場面の二人の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにして確かめる。</p> <p>4～8 物語の世界を想像し、音読したいところを探しながら読む。 ★がまくんとかえるくんの気持ちの変化を読み取ろう。 ○がまくんの家の中で、来ない手紙を待っている二人の気持ちを考える。</p> <p>○かえるくんが家の中で、手紙を書いているときの気持ちを考える。</p> <p>○がまくんの家で、かたつむりくんの届ける手紙を待つ二人の気持ちを考える。</p> <p>9 音読の工夫を考える。 ★どのように音読するか考えよう。 ○音読したい部分を選び、ノートに書き写す。</p> <p>○音読したい部分を書いた文にどのように読むのか、工夫を書き込む。 ・だれが言ったか ・どのように読むか ・どんな動きをするか</p>	<p>・扉の詩を読み、目次や教科書(P. 4)「二年生の国語のまなびを見わたそう」を確認して、今後の学習への見通しをもたせる。</p> <p>・詩の内容や挿絵の色合いにも気付かせ、季節の変化も感じ取らせたい。</p> <p>・簡単に「ゆうびんのマーク」や「金色の空」が何を表しているのかを押さえる。</p> <p>・教科書(P. 26)「この本、読もう」を紹介し、「がまくんとかえるくん」シリーズの並行読書を促す。</p> <p>・図書室よりシリーズを借りて、コーナーなどを作ってもよい。</p> <p>・最後には読み取ったことを生かして音読劇することを知らせておく。</p> <p>・教科書(P. 24)「たしかめること」を基に、がまくんとかえるくんの様子や行動をまとめる</p> <p>・がまくんの家、かえるくんの家のそれぞれの場面での行動をまとめさせる。</p> <p>・挿絵なども提示し、イメージをつかみやすくする。</p> <p>【評】様子や行動の読み取りを通して、場面の様子から二人の登場人物の行動を具体的に想像してまとめる「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・場所の移り変わりに着目して、場面ごとに読み取っていく。</p> <p>・挿絵を提示し、表情からも読み取れるようにする。</p> <p>・二人の行動と会話を軸に、気持ちを読み取っていく。</p> <p>・読み取ったことを音読で表現できるようにして、がまくん役、かえるくん役、地の文などに分けて読ませる。</p> <p>・教科書(P. 22)「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」の音読の仕方を考えさせる。</p> <p>・教科書(P. 14)「ああ。いちども。」と教科書(P. 22)「ああ。」を比べて、気持ちを考えさせるとよい。</p> <p>【評】登場人物の心情の読み取りを通して、文章を読んで感じたことや分かったことを発表し、友達と共有する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・声の大きさ、口調、表情など、音読することに重点を置いて、さまざまな読み方を工夫させる。</p> <p>・読み方によって、聞き手に伝わる印象が違うことを、教師が具体例を示して理解させ、音読を工夫することの必要性をつかませる。</p> <p>・教科書(P. 25)「ノートのれい」を参考にして音読の工夫を書き入れさせる。</p> <p>・書き込みの内容によって色を変えたり、線の種類を変えたりさせる。</p>

○自分の書き込みを見て、音読の練習をする。

10～11 音読劇の練習をする。

★音読劇の練習をしよう。

○グループに分かれて音読劇の練習をする。

12 音読劇をし、感想を交流する。

★がまくんとかえるくんになって音読劇をしよう。

○音読劇をする。

○友達の音読を聞いた感想を発表する。

○学習の振り返りをする。

- ・動きを入れて音読劇をしてもよいことも伝える。
- ・ペアなどになって、どのように読むかを伝えてから音読をし、音読の工夫が伝わるか聞き手に感想を言わせてもよい。

【評】音読の練習を通して、気持ちが伝わるように語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する「知識・技能」を評価する。

- ・前時に音読したい部分が同じ児童同士で5・6人のグループを作っておくとよい。
- ・グループの友達で聞き合い、読み方や体の動きなどを助言し合う。
- ・同じ部分を読んでも、音読の仕方が違うことに気付かせる。

【評】音読劇の練習を通して、場面の様子に着目し、読み取った登場人物の行動や心情を音読劇に取り入れて発表しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・自分がなぜその部分を選んだのかを発表してから、音読劇を披露させる。
- ・クラスの実態に合わせ、クラス全体やグループごとなど、発表会の仕方を工夫する。
- ・それぞれの工夫のよかった点や真似したいと思った点などを発表させるのもよい。
- ・自分が演じることで、読み取りを深めるだけでなく、友達の音読と聞き比べ、感想を深められるようにする。
- ・教科書(P.25)の「ふりかえろう」で学習の振り返りをし、教科書(P.26)の「たいせつ」を確認させる。
- ・教科書(P.25)「この本、読もう」で、シリーズの本に興味をもたせて、読書意欲へとつなげたい。

【 備 考 】